

日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同
計算科学シミュレーションと工学設計分科会

計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会
第24期・第7回 会議議事録

日 時 令和元年7月29日（月） 13:00～15:00

会 場 日本学術会議5階 5-C(2)会議室

出席者 佐々木直哉、金田千穂子、青木伸俊、青柳岳司、井手貴範、宇佐見護、大出真知子、
大野隆央、白鳥正樹、塚越誠一、萩原一郎、吉田有一郎（敬称略）

議事

1) 前回議事録の確認

出席委員により議事録を承認することを確認した。

2) 報告書骨子について意見交換

まず初めに委員長による読み合わせ

以下、報告書骨子に対するコメント

・本文中、応用分野の事例研究の積み重ねを含めて「メンテナンス」という言葉で呼ぶのは良くないのでは？

→製品版がある程度仕上がって、維持段階までもっていくことができれば保守と呼べると思えるが、その維持段階まで持っていく段階こそが大変。

・使い続けるかぎりソフトウェアは成長続けるし、メンテナンスは成長よりも維持的なイメージがあるのでよくないのは？

・世界に通じる汎用ソフトウェアが、本当に日本の産業競争力を上げていくのか疑問。

→日本の産業競争力向上のためには、日本の産業界に独占先行使用权があるべき。

→ソフトウェア自体よりも、使用ユーザーの技量によって産業界への寄与は決まるので、ユーザーの利用技術レベルの向上（啓蒙活動）が大事なのでは？

・産業界の期待する事例研究をソフトウェア開発段階でマッチングできれば、産業競争力の向上とソフトウェアの発展という WinWin の関係になるのでは？

→もっと事例研究の積み重ねフェーズに注目したらどうか？そこにインダストリファクターの入り込む余地がないか？

(報告書の中に意見を取り入れるために) 中小企業のユーザーにアンケートを取ることはできないか、公設試の人に話を聞くことは可能か？

- ・大規模計算機を使用するソフトウェアの利用者の裾野を広げる「デモクラタイゼーション」にアメリカは力を入れている。

- ・日本は企業内のすり合わせが得意なところが、産業競争力に寄与してきた。

→暗黙知は企業秘密のままにしておくほうがいいのでは？

→暗黙知は継承が難しいと思われる。

- ・副委員長より、文科省（担当者：坂下・新井様）訪問時にもらった主なコメント

→富岳に対する意見を集めている、産業界だけの意見を集めていていいのか？

→国プロで開発されたソフトウェアの維持メンテナンスをどうするのか。国がずっと支援し続けることは現実的ではないので、もっと長期的な視点でソフトウェア開発（研究提案）してほしい。

3) 今後の活動について

- ・今年度中にシンポジウムを開催する（来年の2月頃？）

- ・講演内容について：

→国プロのソフトウェアを使ったユーザーの講演

→中小企業のユーザーの講演

→過去の国プロのプロジェクトリーダーの講演

（研究成功例しか話してくれず、あまり意味がないのでは）

- ・報告書について：過去の報告書（ソフトウェア開発の評価方法に対する報告書等）を参考に

配布資料

資料1 第6回議事録

資料2 報告書（骨子）